

学校のお休みが続いていますが、お元気ですか。ゲームも楽しいけれど、いつもよりたくさん本を読んでみよう。時間をかけてじっくり読める本や、シリーズで読める本を4冊紹介します。

『ペニーの日記 読んじゃだめ』 かいせいしゃ 偕成社

ロビン・クライン/作 アン・ジェイムズ/絵 安藤紀子/訳

ちょっと口が悪いけれど元気な10歳の女の子ペニーは、馬が好き。スカートよりズボンが好き。にがて 苦手なのはお年寄り。としよ ところが、馬にくわしいおばあさんに出会った。ペニーは、どうしたか？

『お江戸の百太郎』シリーズ 全6巻 ぶんこ ポプラポケット文庫

那須正幹 /作 小松良佳/絵

東京がまだ江戸と呼ばれていたころ、岡っ引きという探偵たんていのような仕事がありました。岡っ引きの子百太郎ひやくたろうは、そのぼつぐんすいりの推理でむずかしい事件じけんを解決かいけつしていきます。

『野生動物のお医者さん』 (世の中への扉) こうだんしゃ 講談社

齊藤慶輔/著

北海道くしろしづげんの釧路湿原ほごにある野生動物保護センターで、絶滅ぜつめつの危機ききにひんしたオオタカやシマフクロウなどを治療ちりょうする獣医師じゅういし。仕事のゴールは傷きずの完治かんちではなく、動物を野生に帰すこと。その挑戦ちょうせんを追う。

『とどろけ淵のメッケ』 こうせいしゅっぱんしゃ 佼成出版社

富安陽子 /文 広瀬弦/絵

とどろけ淵ふちのカップパたちは、夏なつに大相撲大会ずもうをする。ところが、その最中さいちゆうに、カップパがみんな消えてしまった。チビすけミッケを残して・・・